



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol. 131
六甲山開発史バージョン
2 / 森地 一夫
2017年8月発行

第131回テーマ

六甲山開発史

バージョン2

- 昭和初期の六甲山～開発競争
- 戦後の六甲山
- 国立公園化以降の六甲山

実施日：平成29年8月19日（土）
午前10時～15時00分
場所：六甲山自然保護センター、
記念碑台・散歩道



講師：森地一夫さんプロフィール

1960年生まれ。関西学院大学理学部卒業、神戸大学大学院理学研究科数学専攻理学修士。コンピューター・ソフトウェア会社に勤務。小学校よりボーイスカウトに入り六甲山をハイキングしてきた。現在、日本ボーイスカウト兵庫県連盟・県連盟コミッショナー。ホームページ「祖父の見た六甲山」を開設。



昭和31年8月 表六甲ドライブウェイ復旧／毎日新聞ニュース

自然体験に21名が参加

快晴で、午前中の自然体験会に21名が参加。まちっ子の森のササ刈りと、散歩道モニターの2班で活動しました。午後のセミナーには28名が出席し、聴講に集中しました。

「祖父の見た六甲山」を軸足にした森地さん

森地さんは絵葉書などの資料収集と併せて、「祖父の見た六甲山」のホームページも有名です。今回は、戦前・戦後の六甲山で祖父の高岡 勇氏の活躍ぶりも紹介されました。

高岡氏は戦前に六甲登山ロープウェイに勤務し、戦後は六甲山ホテルの支配人をしながら、自治会などの活動をされた。昭和24年に唐櫃小学校の六甲山分校の開校に関わり、初代のPTA会長を勤め、昭和30年には7年越しで六甲山之碑を再建された。昭和30年に六甲山経営株式会社で阪急六甲のタクシー会社や住宅経営・販売など、一手に山上の開発を担われるなど、戦後復興期の立役者の一人だと思われます。

外人村から現在まで120年を俯瞰した

パート1は「六甲山の外人村」として、グルームさんの時代から現在までの120年の歴史を俯瞰したいと、話を始められた。



三国池畔のグルーム氏別荘

明治28年にグルームさんが三国池の傍らに別荘を建てたのが始まり。あちこちに別荘を造って居留地の外国人を誘い、どんどん仲間が増えて外人村の様相になった。唐櫃道とアイスロードが交差する前が辻が中心地で、郵便局や下村茶屋があった。明治44年の大阪朝日新聞に大江素天が署名記事を書いている。籠で登って、外人村にあったグルームさんの家に泊めてもらい、六甲山の見聞を紹介した。このころから六甲山上にある外人村が一般の人に知られた。

それ以前の六甲山は里山みたいに使われていたが、下から見ると単なる禿山だった。神戸開港で居留地ができ、外人が入ってきて、神戸港からこれほど近くに1,000m近い山があるのは珍しく、ちゃんと目を付けた。山の上で何かしようという発想は外人さんが思いついた。別荘に住むだけでなくいろんなスポーツが行われた。日本で最初にゴルフ場が発

祥した。スキー・スケートも山の上で行われた。登山・ハイキングも外人さんが道を開拓して、日本人が真似て歩いた。山を歩くという文化ができた。

大正3年～7年、欧州で第一次世界大戦が勃発し外人が国に帰ってしまい、空いた別荘に日本人が住み始める。軍需景気で金持ちになった日本人が別荘を買うようになり、山上のインフラが必要になる。明治43年ごろから六甲山進出を始めていた阪神が山の上に電気を供給するなど、徐々に変化していった。と、開発史の初期を改めて紹介された。

パート2は阪神、阪急の開発競争、パート3は国立公園化と進められた。今回の全体のコンセプトとして、六甲山が国立公園化して5年後の昭和37年5月10日、当時の原口 忠次郎神戸市長が「六甲連山は神戸の庭である。（中略）現状はあまりにも無秩序に開発が進められ、また、神戸の市街地と背後地の有機的な連携をも阻害している」という記述を提示された。紆余曲折の開発史を豊富な資料を駆使して、話題を展開されました。



六甲登山ロープウェイ連絡バス

これからの六甲山はどうなるの？

昨年未だに、六甲山ホテルの譲渡がニュースになった。阪急系の六甲山経営の歴史が終焉を迎え、六甲山の現代史の転換になると思われた。今回の森地さんに解説していただいたことを手がかりに、今後の進展を注視したい。

編集子のつぶやき（堂馬）

報告書づくりの裏方を努めていますが、参加者に感想文をお願いするのを忘れたため、このコラムに登場しました。

講演記録をテープ起しし、提供資料を読み返し、何とか120年の開発史を見渡しました。神戸開港を端緒に、行政の施策や事業者の目論見、さらに2回の大戦や大災害がからんだ、壮大な歴史ドラマを感じました。その節目で祖父の高岡勇氏の活躍も確かめられるなど、森地さんの愛着がうかがえました。



主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：神戸県民センター、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】順不同

大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、

コープこうべ環境基金、セブン-イレブン記念財団、

G G G国立・国定公園支援事業